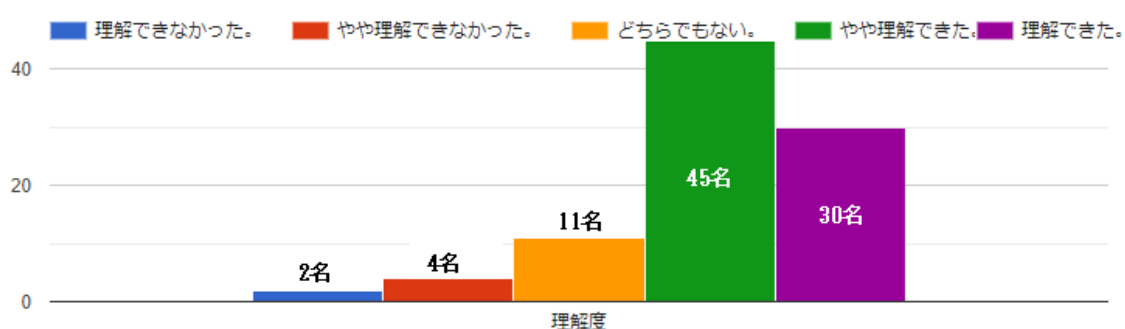


2021年度 愛臨技生物化学分析検査研究班 2月研究会レポート アンケート集計結果

作成日：2022年3月12日

アンケート1

「免疫検査のピットホールと精度管理」の講義に対する理解度



- レポート提出 92 名中、8 割超と多くの方々が理解できたとご回答いただきました。

アンケート2

「免疫検査のピットホールと精度管理」の講義に対するご意見

- データを見る時は、試料や試薬、機器などの背景をきちんと把握しておかなければ、データを見誤ってしまう危険があることを再認識しました。
- 特に非特異反応についてよく理解できました。対処法をしっかりと理解して実施し、正しいデータを出せるようにしたいです。
- 相関性、非特異反応の受けやすさ、ポカ値の発生しやすい項目、またそれぞれ影響するものなど、丁寧に説明していただきわかりやすかった。精度管理のピットホールでは n 数を増やすことによって精度の良さが見えてくるという内容も興味深かった。

アンケート3

本研究会のどのような点が特に役に立ちましたか？

- 現状の愛知県の試薬動向を含め参考になった。
- 免疫測定法の乖離する理由がよくわかった。
- IFCC、TSH ハーモナイゼーションなど他施設の動向を知ることができた点。
- コロナ禍で検査情報も乏しく、有意義な機会となった。

アンケート 4

その他ご意見

たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り一部ご回答させていただきます。

ご意見①：愛臨技研修会によく参加させていただいているのですが、どの会も非常に勉強になってありがたいです。今後も他県より参加できる WEB 研修会を開催していただけると助かります。ありがとうございます。

- ご好評いただきありがとうございます。今後も県外会員様にご参加していただけるよう継続を考えております。今年度より、生涯教育点数の付与もいたしておりますので、皆様お誘いあわせのうえお申込みいただけますと幸いです。

ご意見②：臨床化学で「脂質はキャリブレータの溶解手技や保存条件によりデータが左右される」とありましたが、具体的にどう影響するかが知りたいです。

- 脂質のキャリブレータといえば、多くの他の項目のキャリブレータで見かける点眼薬のような水溶液タイプではなく、凍結乾燥品が主流といえます。これは、蒸留水やメーカー指定の溶解液を用いて正確に溶解する必要があります。2.0ml で溶かさなくてはいけないものを 1.9ml や 2.1ml で溶かした場合、検量線の傾き（得られる吸光度）に影響するからです。また、溶解時間においても脂質という項目の性質上、使用までの静置時間が長く設けられています。正確な量で溶解し、正確な時間をかけることにより、正確なデータが得られることをご理解ください。

設問 1～6 と正解

設問 1) ALP/LD の IFCC 標準化対応法への変更による注意点のうち、誤っているものはどれか？

- 1.ALP では IFCC 標準化対応法へ変更後、測定値が現行（JSCC 標準化対応法）の 3 倍となる。
- 2.ALP では妊婦において、胎盤型 ALP が増加することにより高めに測定される。
- 3.LD において、基準範囲の変更はない。
- 4.LD5 優位検体では、現行（JSCC 標準化対応法）に対して低めの活性になる。
- 5.測定値を海外と共有化できる。

正解：1

設問 2) 令和 3 年度愛臨技精度管理調査にて実施したアンケートにおいて、「ALP/LD 測定試薬を既に IFCC 標準化対応法へ変更済みである」と回答した施設の割合は次のうちどれか？

1. 2%
2. 15%
3. 33%
4. 57%
5. 90%

正解：5

設問 3) 令和 3 年度愛臨技精度管理調査参加施設のうち、JCCLS 共用基準範囲を採用している割合の平均値は次のうちどれか？

1. 2%
2. 15%
3. 33%
4. 57%
5. 90%

正解：4

設問 4) 感染症項目について、参加施設全てで A 評価でない項目はどれか？（複数回答可）

- 1.HBs 抗原
- 2.HCV 抗体
- 3.HIV
- 4.梅毒 TP 抗体
- 5.全て A 評価

正解：1 と 3

設問 5) TSH ハーモナイゼーションについて、誤っているものはどれか？

- 1.国際臨床化学連合（IFCC）が TSH 測定の試薬間差を軽減するために考案した手法である
- 2.TSH は α 、 β のサブユニットで構成される糖たんぱく質である
- 3.各社の試薬中の抗体が試薬間で異なるため測定値が試薬ごと異なる
- 4.WHO 標準品の TSH と臨床検体における TSH の構造は一致する
- 5.全方法間平均法（APTM）という手法により平均的な値に収束させる

正解：4

設問 6) 令和 3 年度愛臨技精度管理調査にて実施したアンケートにおいて、「TSH 値のハーモニゼーションへの対応について IFCC 標準化法へ変更済みである」と回答した施設の割合は次のうちどれか？

1. 6%
2. 2%
3. 13%
4. 31%
5. 54%

正解：5

まとめ

- 2021 年度 2 月研究会はオンデマンド配信にて実施させていただきました。事前申し込み 130 名に対して、92 名（うち県内 72 名、県外 20 名）の方がレポート提出してくださいました。
- 今回のテーマは『令和 3 年度愛臨技精度管理報告』をテーマに挙げ、精度管理調査の解析結果を報告いたしました。また「免疫検査のピットホールと精度管理」についてもメーカーご協力のもと配信させていただきました。
- 臨床検査技師として、日々検査精度を保つ事はとても重要で、この検査結果を基に先生が患者様の病態を診断し、治療していく事を常に頭に置いて業務にあたらなければなりません。すべての臨床検査技師が日々提供している検査結果に自信を持ち、臨床へ報告出来るよう、正しい精度管理の知識を得て、各ご施設で実践されることが望まれます。
- 今年度も全国の会員の方々にご参加いただき、多くのご好評コメントを頂きました。ご視聴いただきありがとうございます。来年度も皆様により良い情報提供ができるよう班員一同、精進してまいります。
- また、班員だけでなく、講師としてご協力いただいたメーカーの方々のお陰で今年度も配信の事業を遂行する事ができました。この場を借りて感謝申しあげます。誠にありがとうございました。来年度も引き続き愛知県臨床検査技師会生物化学分析検査研究班をよろしく願いいたします。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先：生物化学分析検査研究班

（一社）半田市医師会健康管理センター 臨床検査事業部

青木 岳史

TEL：0569-27-7882

E-Mail：c1937_aoki@handa-med.jp